

百七十年ノ布告第十六章第五六七條ニ所謂復權ハ全ク君主ノ恩惠ニ出テ之ヲ許可スルニ於テ敢テ法律上ノ定規ニ從フヲ要セサリキ古ヘノ著述者曾テ之ヲ解釋シテ犯罪人刑役ヲ畢リタルノ後其身ニ蒙ムリタル汚痕ト民事上ノ無能力トノ爲ニ生活スル能ハサルキ之ニ財産ト名譽トヲ復セシムルノ謂ナリトセリ

立憲議會モ亦タ此精神ヲ襲用シタレモ該議會ハ此制ノ性質ヲ一變シ從來君主ノ恩惠ニ係ルヲ改メテ處刑人カ當ニ享有スヘキノ權利トセリ是ニ於テ一タヒ罪犯ノ爲ニ名譽ヲ失ヒタル者ト雖モ過ヲ悔ヒ志ヲ悛ムル以上ハ君主ノ恩惠ヲ待タスシテ當然社會ニ歸ルヘキトナレリ蓋シ該議會

ハ罪犯ヲ懲ラスコト天下ノ公道タラハ遷善ヲ賞スルモ亦タ天下ノ公道タリトノ說ヲ採レルナリ知ル可シ立憲議會ハ君主ニ與フルニ特赦ノ權ヲ以テセスト雖モ復權ノ制ニ至テハ必ス其設ナカル可ラサル所以ヲ覺知シタルコト且ツ立憲議會カ復權ノ制ニ就テ定メタルノ手續ハ極メテ簡易ヲ旨トセリ其法先ツ町村會ニ於テ本人ノ品行ヲ調査シ果シ復權ヲ許スニ足ルト認メタルキハ町村官吏兩名同道ニテ重罪裁判所ニ至リ高聲ニ此人ハ刑期ヲ滿タシテ其罪犯ヲ消滅セシメ今日ニ至リテハ其品行更ニ間然スヘキ所ナシ之ニ依テ吾々國民ニ代リ其罪ヲ消滅セシメラレシコトヲ冀望スト云フ此時所長ハ直ニ言渡シテ曰ク法律及裁判所



ハ國民ノ請求ニ應シ正ニ汝ノ罪ヲ消滅セシムト  
 治罪法制定ノ時ニ至リ右正大ノ手續ヲ廢シ之ニ代フルニ  
 煩冗ナル法式ヲ以テシタリ此法制ニ據レハ處刑人願書ヲ  
 認メ之ニ必要ノ書類ヲ添ヘテ控訴裁判所ノ書記局ニ出シ  
 又自ラ其願書ヲ法律ニ關スル新聞紙ニ登載スルヲ要ス大  
 檢事請願ヲ聞クキハ意見ヲ述フ是ニ於テ控訴裁判所ハ處  
 刑人ノ請願ヲ受理スヘキヤ將タ之ヲ廢却スヘキヤヲ決シ  
 若シ受理スヘシト決シタル時ハ書類ヲ司法卿ニ送達ス司  
 法卿之ヲ受テ勅裁ヲ仰キ而ル後ニ復權狀ヲ附與ス  
 此法制ニ據レハ復權ヲ許スニ種々ノ手續ヲ要スルニモ拘  
 ハラス到底勅裁ヲ仰クニ非サレハ之ヲ言渡スヲ得サル

ノ法ナリ故ニ復權ヲ行フノ權利ハ全ク君主ノ權内ニアリ  
 ト謂フ可シ果シテ然ラハ治罪法ノ制ハ徒ニ無用ノ法式ト  
 謂ハサルヲ得ス否ナ處刑人ニ便益ヲ與フルヨリ寧ロ之ニ  
 障阻ヲ與フルノ有害物ト謂ハサルヲ得サルナリ蓋シ治罪  
 法ヲ制定シタル立法者ハ千七百九十一年ノ刑法ヲ取ルニ  
 時世ノ變遷ヲ察セサル者ナリ語ヲ換ヘテ言フキハ右立法  
 者ハ特赦權ヲ以テ君主ニ歸スルキハ復權ヲ行フハ權モ亦  
 ヲ單ニ之ヲ君主ニ委セサル可ラサルヲ知サル者ナリ  
 抑千七百九十一年ノ法制ニ據レハ君主ハ特赦ノ權ヲ有セ  
 ス又復權ハ處刑人ノ當然享有スヘキノ權利タリシヲ以テ  
 若干ノ時日ト手續トヲ要セシモ亦然ルヘキヲナレモ今日



復權ノ君恩ニ出ルニ至テ尙ホ之ニ時日ト手續トヲ要スルハ豈ニ時世ノ變遷ヲ知ラサル者ト謂ハサル可ケンヤ試ニ今日ノ法制ニ從ヘハ君主ハ死刑ヲ宥免スルニ毫モ時日ト手續トヲ要セサルニ人ニ武器ヲ蓄フルヲ許サント欲スレハ若干ノ法式ニ從ハサルヲ得ス又苦役廿年ニ該ルヘキ重罪人ハ法式ニ從ハスシテ之ヲ特赦スルヲ得ルニ人ニ兵卒トナリ又法廷ノ證人トナリ或ハ近親ノ後見ヲ爲スヲ許サント欲スレハ五年間ノ試檢ト煩冗ナル手續トヲ經サル可カラス豈ニ事物ノ輕重緩急ヲ過マラスヤ今日ノ立法者ハ此等ノ結果ニ思ヒ及ハサリシ者ト云フモ蓋シ之ヲ辨解スルノ辭アラサルヘシ

然ルニ或ハ特赦ト復權トノ間ニ強テ區別ヲ設ケ此法制ヲ辨護セント欲スル者アリ曰犯罪人ニハ主刑ノ外尙ホ附加刑トシテ民權及政權ヲ剝奪セラル、者アリ是ハ社會ニ於テ信用ス可ラスト認メタル者ナシテ濫リニ尋常人ト同様ナル權利ヲ施行セシメサルノ法ナリ然ルニ特赦ノ權ハ僅ニ主刑ヲ免スニ止テ右ノ如キ附加刑ニ及ホスヲ得ス然レハ則チ豈ニ此無能力ヲ除クノ法ナカル可ケンヤト嗚呼是レ牽強附會ノ說ト謂ハサルヲ得ス此論理ヲ碎破スルニハ好例アリ即判決執行ニ先テ特赦ヲ行フキハ剝奪公權モ亦タ自ラ之ト共ニ消滅スルヲ是ナリ若シ果シテ論者ノ說ノ如クナラハ此際ト雖モ何ソ依然トシテ附加刑ヲ存セサ



ルヤ今其然ラサルヲ見レハ論者ノ説ハ全ク牽強ナリト謂  
ハサル可カラス然レモ奈何セン治罪法ノ條款ヲ制定シタ  
ルハ君主ニ特赦權ヲ委子タル法律ノ後ニ在ルヲ以テ君主  
ハ定例ノ時日ト手續トヲ履マサルヲ得スト雖モ其特赦ノ  
權ヲ以テ併セテ剝奪公權ヲ解クヲ得セシムルハ斷シテ  
道理ニ適合スルモノト謂フ可シ

治罪法ニ於テ復權ヲ行フノ權利ヲ制限シタルヲ唯右ノ時  
日ト手續トニ止ラス同法ノ草案ニテハ千七百九十一年ノ  
法制ニ倣ヒ復權ヲ以テ主刑ヨリ生スヘキ一切ノ結果及一  
切ノ不能力ヲ解除スヘキモノト定メタルヲ參事院ニ於テ  
二。切。ノ。結。果。ノ。數。字。ヲ。削。除。シ。タル。ヲ。以。テ。復。權。ノ。効。能。ハ。唯。處

刑人ノ不能力ヲ解除スルニ止ルヲトナレリ吾輩ハ凡ソ主  
刑ヨリ生スル結果ノ中、復權ト共ニ消滅セサル可カラサル  
者一アリト信ス即チ復權以前ノ罪犯ハ其以後ノ罪犯ノ再  
犯加重ノ基トナル可ラサルヲ是ナリ夫レ復權ノ本性タル  
ヤ處刑人ヲシテ其未ダ處刑ノ判決ヲ受ケサル前ノ如キ榮  
譽權利尊信等ヲ得セシムルヲ以テ目的トスルニ非スヤ苟  
モ本人既ニ改心シテ犯罪ノ形跡ヲ留メス再ヒ同胞人士ノ  
斑ニ列スルニ至ラハ則チ是レ再生ノ人ナリ假令ヒ罪アリ  
ト雖モ豈ニ舊惡ノ爲ニ刑ヲ加重スヘケンヤ然レモ今日ノ  
法制ニ據レハ假令ヒ被告人重罪裁判所ニ於テ此等ノ論理  
ヲ喋々スルモ裁判官ハ之ニ刑法第五十六條ヲ示シテ一言



ノ下ニ其論理ヲ碎破センノミ  
 又現今ノ法制ニ據レハ重罪再犯者ト輕罪ヲ犯シタル者ト  
 ハ復權セラル、ヲ得サルモノトス右輕罪ニ係ル法制ハ全  
 ク立法者疎忽ノ過ニ由ルト謂ハサルヲ得ス夫レ輕罪ノ處  
 刑人ト雖モ早晚社會ニ歸ルヘキ者ナレハ名譽ト信用トヲ  
 要スルハ智者ヲ待タスシテ知ル可シ然ルニ今日ノ法制ニ  
 於テ此輩ハ永劫不能力タルヘキ者ト定メタルハ實ニ奇々  
 怪々ト謂ハサル可ラス況ンヤ重罪ノ處刑人ハ復權ヲ得ル  
 ノ期アルニ獨リ輕罪ヲ犯シタル者之ヲ得ル能ハサルハ豈  
 ニ輕重ノ順序ヲ過マラスヤ然レモ法典中ニ明言スル所ハ  
 君主ト雖モ濫ニ之ヲ變ス可カラサレハ復タ之ヲ奈何トモ

ス可カラサルナリ

重罪再犯者ニ就テハ「ベルリエ」氏曾テ參事院ニ於テ謂テ  
 曰ク頑陋ニシテ刑ニ懲リサル者ハ此恩惠ヲ與フ可ラス故ニ  
 法律ノ明文ヲ以テ之ヲ拒絕スルヲ最モ然ル可シト夫レ然  
 リ然リト雖モ人間ノ裁判ハ固ヨリ確然不易ナルヲ能ハサ  
 レハ時ニ或ハ錯誤ナシトス可ラス然レハ則チ之ヲ以テ上  
 帝ノ裁判ノ如ク嚴格ナラシメ永ク處刑人ノ悔悟ノ路ヲ塞  
 クハ豈ニ法制ノ宜キヲ得タルモノニ非サルナカラシヤ  
 之ヲ要スルニ現今復權ノ制ハ極メテ不完全ナル者ト謂ハ  
 サルヲ得ス法律ノ之ヲ制限スル甚ニ過キ其手續ヲ定ムル  
 煩冗ニ失シタルカ爲ニ却テ其効能ヲ損シタリ今復權ノ制



ナ設ケタル立法者ノ精神ヲ察スルニ獨リ仁愛ノ趣意ニ出  
 テタルニ非スシテ社會公衆ノ利益ヲ圖テ設ケタル者ナリ  
 夫レ處刑人ニ於テ其生活ノ障礙ヲナスヘキ無能力ノ解際  
 セラレンコトヲ望ムハ固ヨリ疑ナシト雖モ曾テ已レニ危害  
 ナ與ヘタル者ヲ薰化シテ良民トナスハ特ニ社會ノ利益ナ  
 リ故ニ復權ニ關スル制度ノ消長ハ處刑人ヨリ寧ロ社會ニ  
 於テ劇ク痛痒ヲ感スル所ナレハ立法者ハ其制ヲシテ愈發  
 達セシメサル可カラズ若シ夫レ宜キニ適セハ復權狀ハ一  
 片毎ニ社會ノ瘡痍ヲ治スル良藥ト謂フ可シ何トナレハ一  
 國ノ將ニ失ハントシタル民ヲ返スハ復權ノ力ナレハナリ  
 然ルニ復權ヲシテ此美果ヲ結ハシメント欲スレハ處刑人

ナシテ復權ヲ得ルノ利益ヲ感セシメ且ツ之ヲシテ争テ復  
 權ヲ望マシムルコトヲ要ス復權ノ利益ヲ感セシメント欲セ  
 ハ復權ヨリ生スヘキ効能ヲ大ニセサル可ラス争テ之ヲ望  
 マシメント欲セハ其手續ヲ簡略ニセサル可ラス然レハ則  
 チ周到緻密ノ法式ヲ設クルカ如キハ本ト立法者ノ精神ニ  
 非サルノミナラス又政畧上ノ得策ト謂フ可カラサルナリ



明治十五年十一月廿一日出版版權屆

全部二十冊ノ内第四冊迄發兌  
以下毎月二冊宛出版

每冊定價金拾七錢五厘

東京京橋區八官町十九番地

御用印行所

忠愛社

同芝區三島町

山中市兵衛

同京橋區南傳馬町二丁目

穴山篤太郎

賣

同日本橋區通三丁目

丸屋善七

同日本橋區本町三丁目

原亮三郎

弘

書

同神田區雉子町

巖々堂

同神田區小川町六十二番地

西村 兒一

西京寺町

福井孝太郎

大坂南區二ツ井戸町

藤原熊太郎

尾張名古屋

永樂屋東四郎

箱館地蔵町

修文堂

新潟竹川町

京文社

肆





68

3/2  
a 77



終